

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*43社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
()内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2018/9月	12月	2019/3月	6月	9月	12月	2020/3月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	21	11	7	16	21	(9) 24	7
うち製造業	33	22	11	22	33	(33) 33	33
非製造業	18	9	6	15	18	(3) 21	0
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲10	▲3	▲3	▲2	▲3	(▲10) ▲5	▲15
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲7	▲4	▲4	▲3	0	0	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲9	▲7	▲16	▲9	▲12	(▲12) ▲14	▲12
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲49	▲47	▲50	▲48	▲46	(▲63) ▲54	▲68
資金繰り < 楽である - 苦しい >	23	14	11	14	19	12	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	29	29	27	35	33	35	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	0	▲2	▲8	▲8	3	(5) 0	5
販売価格 < 上昇 - 下落 >	4	▲5	5	4	▲2	(7) 0	3
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	48	36	36	33	15	(27) 30	37

(注) 「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2020/3月までの予測」は調査対象外。

(事業計画)

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

	2017年度実績	2018年度実績	2019年度計画					
			上期		下期			
売上高	+3.3	-2.6	-2.4	< +0.2 >	-0.4	< +1.0 >	-4.2	< -0.6 >
経常利益	-3.7	-19.8	-18.9	< +13.5 >	-15.3	< +37.1 >	-23.5	< -8.8 >
当期純利益	+16.4	-34.7	+9.7	< +13.2 >	-14.0	< +25.3 >	+77.2	< -0.2 >
設備投資額	+75.7	-40.7	+53.7	< +3.4 >	+82.1	< -1.3 >	+35.0	< +8.0 >

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2019年12月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 43 社（製造業 9 社、非製造業 34 社）
- 回答率 97.7%（有効回答社数 42 社）
- 回答期間：2019年11月13日～12月12日

1. 業況判断 DI

- 12月の業況判断 DI（全産業ベース、DI：%ポイント<以下同じ>）は+24。前回9月調査に比べて3期連続で改善した（前回+21、前回比+3）。
 - 製造業の業況判断 DI は+33 と前回調査比横這い。
 - 非製造業の業況判断 DI は+21。建設関連で悪化した先もあったが、宿泊・飲食サービスが改善し、前回調査比改善した（前回+18、前回比+3）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を見込み、良い超幅が縮小するとの予測（2020年3月までの予測：+24⇒+7）。
 - 製造業は、横這いの見込み（+33⇒+33）。
 - 非製造業は、建設、卸・小売で悪化を見込む先が多く、良い超を解消する見込み（+21⇒±0）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI<需要超過－供給超過>」（▲3⇒▲5）は、建設で需要超幅が拡大したものの、卸・小売で供給超過に転じたことなどから、全体では供給超幅が拡大した。先行きは、供給超幅がさらに拡大する見通し（⇒▲15）。「製商品在庫水準判断 DI<過大－不足>」（±0⇒±0）は、どの業種も前回調査から不変で、全体としても過不足感はなし。
- 「生産・営業用設備判断 DI」<過剰－不足>」（▲12⇒▲14）は、宿泊・飲食サービスで不足超幅が拡大したことから、不足超幅が拡大した。先行きは、卸・小売で不足超過が解消するため、全体で不足超幅は縮小する見通し（⇒▲12）。
- 「雇用人員判断 DI<過剰－不足>」（▲46⇒▲54）は、運輸で不足超幅が縮小したものの、建設、卸・小売、宿泊・飲食サービスで不足超幅が拡大したため、全体で不足超幅は拡大した。先行きは、製造業のほか、建設、卸・小売

等で不足超幅がさらに拡大するため、全体でも不足超幅がさらに拡大する見通し（⇒▲68）。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、「資金繰り判断 DI〈楽である－苦しい〉」（+19⇒+12）は、「楽である」との回答先が減少し、「苦しい」との回答先が増加したため、「楽である」超幅が縮小した。一方、「金融機関の貸出態度判断 DI〈緩い－厳しい〉」（+33⇒+35）は、大幅な「緩い」超幅が前回調査比で一段拡大したほか、「借入金利水準判断 DI〈上昇－低下〉」（+3⇒±0）も、「上昇」との回答先が減少し、上昇超過を解消した。
- 「仕入価格判断 DI〈上昇－下落〉」（+15⇒+30）は、製造業や運輸で±0 から上昇超幅が拡大したほか、建設、宿泊・飲食サービスで上昇超幅がさらに拡大したため、全体で上昇超幅が拡大した。先行きは、卸・小売で±0 から上昇超幅が拡大するほか、運輸、宿泊・飲食サービスで上昇超幅がさらに拡大するため、全体で上昇超幅はさらに拡大する見通し（⇒+37）。「販売価格判断 DI〈上昇－下落〉」（▲2⇒±0）は、製造業や建設で下落超過を解消したことなどから、全体でも下落超過を解消した。先行きは、宿泊・飲食サービスで上昇超幅が拡大することから、全体で上昇超幅が拡大する見通し（⇒+3）。

3. 事業計画

- 2019 年度の計画は、売上高は前年度比▲2.4%、経常利益は同▲18.9%、当期純利益は同+9.7%、設備投資額は同+53.7%となっている。売上高、経常利益、当期純利益、設備投資額はいずれも上方修正された。

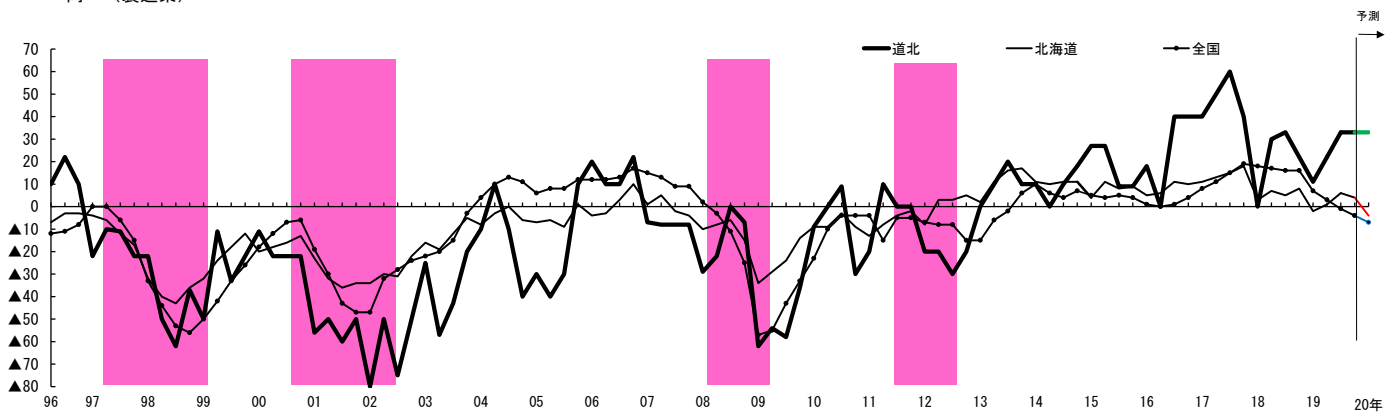
以 上

2019年12月短観・調査結果

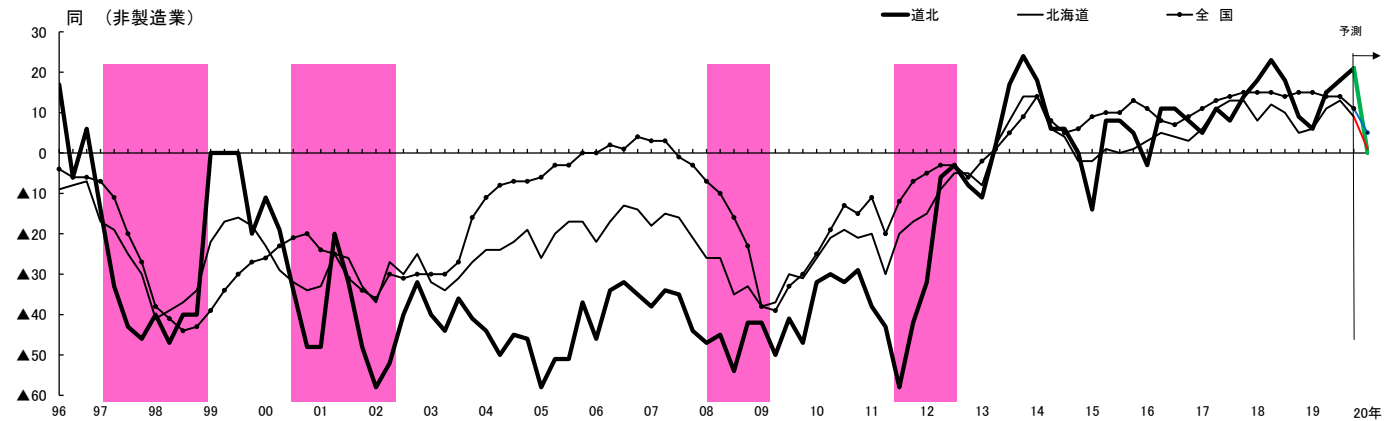
業況判断D. I. (「良い」－「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

全国、北海道は2017/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2017/12月以降は見直し後の新ベース。

ピンク シャドローは景気後退期（内閣府調べ）